プラネタリーヘルス
長崎大学の挑戦

貧困状態は多面的把握を

経済学部　准教授　三輪　加奈

貧困は世界的な課題です。世界銀行は、世界の貧困人口は6億4800万人（総人口の8・4％、2019年時点）であるとしています。一方、国連開発計画（UNDP）は、13億人が貧困状態にあると推定しています。二つとも国際開発において中心的な役割を担っている国際援助機関ですが、どちらの数字を信じればいいのでしょうか。

実はこれらの数字は、算出方法が異なります。世界銀行は、「1人あたり1日2・15㌦」を貧困の基準としていて、1日2・15㌦以下で生活している人びとを貧困層と定義しています。このような所得水準で測られる貧困を、「所得貧困」といいます。

他方で、貧困というのは所得の低さだけではなく、十分な教育が受けられない、長く健康な生活が送れない、社会経済活動・政治へ自由に参加できないなど、多面的な現象であることが認識されています。そこで、UNDPは「多次元貧困指数（MPI）」を開発し、健康・教育・生活水準の三つの側面における貧困の度合いを数値化しています。MPIは多元的（多面的）な貧困を測る指標で、所得貧困よりもはるかに多い13億人が多次元貧困状態にあるということになります。

5歳未満の子どもの多次元貧困を測る基準

次元	指標（基準）
栄養	・0～5カ月児が母乳以外のものを摂取している ・6～23カ月児が最低限の食事基準を満たしていない ・消耗症（深刻な栄養不良の状態）である ・低体重である
健康	・伝統的産婆などの非熟練分娩介助者、または立ち合いなしの自宅などでの出産である ・12カ月以上の子どもが決められた予防接種をすべて受けていない
乳幼児期の子どもの発達	・36～59カ月児が就学前教育を受けていない ・家に本またはおもちゃがない（学習支援アイテムの不足）
水	・安全ではない飲み水（水源）を使用している
衛生	・手洗い場に石鹸と水がない、もしくは手洗い場がない ・安全に管理されていないトイレ設備を利用している
住居	・寝室1部屋を4人以上で使用している（密集状態） ・床、屋根、外壁のいずれかが自然素材で出来ていて耐久性に欠ける ・不潔な炊事用燃料を室内で使用している（室内大気汚染の懸念あり）

※各次元の基準を一つでも満たす場合、その次元について貧困状態にあると判断する。

所得貧困もMPIも、家計（世帯）レベルで測られます。そのため、例えば、家計内の資源配分が成人の男性に偏っていて、家計としては所得貧困ではなくても、家計内の女性と子どもが極めて厳しい状況にある場合などの家計構成員の個別の貧困状態は考慮されないという問題があります。近年注目が集まっている「子どもの貧困」についても、子どもは家計所得をコントロールできず、生活（ニーズの充足）も大人に完全に依存していることから、同じ家計内であっても、子どもにより、どのような貧困状態を経験するかが異なるとされています。

そこで、子ども個人の多元的な貧困状態を把握しようとする研究が進んでいます。子ども個人の貧困状態をどのように測るかというと、例えば5歳未満（0～59カ月）の子どもについては、図のような基準を用います。健康の側面（次元）を例にすると、その子どもの出産が「伝統的産婆などの非熟練の分娩介助者、もしくは誰の立ち合いもない自宅などでの出産であった」と、「（1歳以上の子どもが）決められた予防接種をすべて受けていない」のいずれか一つ以上が当てはまる場合、健康の側面で貧困状態にあると判断します。

カンボジアで実施された「人口保健調査」という全国規模の調査データを用いて、子ども一人一人について各基準に当てはまるかどうかを判断してみると、2014年時点ですが実に94％の5歳未満の子どもが一つかそれ以上の側面で貧困状態であり、三つ以上の深刻な多次元貧困状態といえる子どもは64％となっています。

経済発展とともに発展途上国の人びとの所得水準は上昇し、所得貧困から多くの家計が抜け出していますが、ではそれが果たして個々人の貧困状態も改善しているのかどうか、今後はこれまで以上に気を配ることが求められています。

（原則毎月第3木曜日付、地方版に掲載します）

研究に関するサイト